



令和4年  
9月議会

# 報告

一般質問しました

## ユニバーサルなまちづくりに向けて

「誰もが元気で自分らしく暮らせるまち」

私たちの暮らしをみると、実に多様な課題に直面していることがわかります。高齢化と人口減少、格差と貧困、それによる人々の孤立、毎年のように起こる自然災害、そしてコロナ禍によって見えてきた社会の課題など住民の声を受け止めるとするならば、その内容はかなり広範囲なものになることは想像できます。そこにマニュアルのような明確な答えはありません。ただみんなが幸せに生きていくことが大切で、町の目指しているものだと思います。

ユニバーサルなまちづくりと言うと建造物や公共交通機関などに目が行きます。多くの人々が使いやすいデザインにしておくことが大切です。それだけではなく、住民のちょっとした意識を変えることや行動によって解決される課題もあります。まちが考えるユニバーサルなまちづくりについて質問しました。

### バリアフリートイレの町内の公共施設の整備状況について

本来、多目的（多機能）トイレは車いす利用者やオストメイト（人工肛門などを使う人）、子連れの利用者に対応したトイレです。多目的トイレの目的をはっきりさせるために、名称をバリアフリートイレに変更し、必要な方々が利用しやすいようにピクトグラムなどで分かりやすく表記が進められています。

住民のバリアフリートイレへの理解と周知だけではなく、誰もが使いやすいトイレへの取り組みを進めて欲しい。

また、利用するトイレに悩むとの声がある「LGBTQの人への配慮」や「色覚（しきかく）障害の人のために配慮」された表示など、さまざまな背景を抱えた方々も利用しやすいようなトイレであって欲しいと要望しました。



### いつでも利用できる生理用品の設置



内閣府男女共同参画局の地域女性活躍推進交付金（つながりサポート型）の拡充の中では、女性や子どもに寄り添ったきめ細かい支援を充実させるための項目に生理用品の提供もあげられています。

女性の生理は大体12歳から50歳と仮定して、生理用ナプキンを購入するのに必要な費用は生涯で50万円以上とされています。身体的な変化だけでなく経済的な負担もこれまで女性が負ってきました。生理は女性だけの問題だとは言えないのではないのでしょうか。生理の貧困をどのように捉えていますか。また公共施設や学校のトイレに生理用品の常設の設置が必要と考えますが、岡垣町としてどのように考えているか尋ねました。

### 公共施設の男性用トイレにサニタリーボックスの設置

近年、日本でも食文化が欧米化してきたことが原因で、高齢の男性を中心に前立腺がんや膀胱がんになる方が増えてきています。

また、日常生活においても加齢により尿意を感じる頻度が増大し、吸水パッドなどが必要な方が増えていきます。

そのため男性用トイレにもサニタリーボックスの設置の必要があると質問しました。

※岡垣町では8月18日から役場や町立公民館などの公共施設の男性トイレにサニタリーボックスが設置されました。



## どこが問題？ ジェンダー後進国日本

北九州市の男女共同参画センターで7月に開催された「ムーブフェスタ」で、若者と主権者教育について語り合うトークセッションに参加しました。

女性議員としての立場からやりがいと困難さについて、自分の体験や想いを話させていただきました。

子育てや家庭とのバランスを工夫して、政治に参画することの大切さや必要性などお話しでき、貴重な体験となりました。

